

**農林水産大臣賞**  
のうじくみあいほうじん おはらえいのう  
受賞者 **農事組合法人 小原営農**  
(埼玉県熊谷市)

**【地域ぐるみの農業経営を目指して】**

## 1 取組の動機と背景

農事組合法人小原営農が活動する熊谷市小原地区は、市の南西部に位置し、比企丘陵につながる山林をはじめ、水田、畑、樹園地が混在する地域である。

昭和55年から水利用の効率化と転作作物の生産安定を目指して、日本で最初に地域の合意に基づく水田のブロックローテーションが考案・導入され、全国の水田農業のモデルとなり、現在も継続している。

しかしながら、比企丘陵の一部でため池を水源とした谷津田や不定形な田など耕作条件の厳しいほ場も多数あり、地区には機械利用組合が2つ存在していたが、担い手の高齢化及びそれに伴う農地の維持管理力の低下という地域農業の構造的な課題もあった。

そのような状況において、2つの機械利用組合を統合した法人を設立し、地域の特性を生かした農業生産を通じて地域農業を守ることを理念として、平成26年に農事組合法人小原営農が設立され、米、麦、大豆の二毛作を中心とし、通年作業及び冬場の収入確保の観点からキャベツ、はくさい等の露地野菜を取り入れた主穀複合経営を展開している。

## 2 主なむらづくりの内容

- 平成29年から水田転作作物としてなたねの栽培を開始し、市内の農業者等やなたね油搾油業者らと協働して「熊谷ナナイロプロジェクト」を立ち上げ、市内の遊休農地でなたねを生産し、なたね油を商品化する活動を実施中。
- 地域貢献活動の一環として地元子ども達に農業に興味を持ってもらうため、平成27年から江南南小学校5年生を対象に、田植え・収穫作業体験を実施中。
- 将来的に障がい者を活用することを見据えて、地域にある福祉系学部を有する立正大学や障がい者を雇用する企業等と連携し、農福連携に取り組中。
- 地域に生息するホタルの幼虫保護のため、4月に実施する麦の赤カビ病防除を動噴による防除から無人ヘリコプターによる防除に切り替え、ドリフトによる薬剤の拡散を抑制してホタルの生息環境を保全。



「熊谷市産なたね油」のPR



小学生の収穫体験



農福連携圃場での田植え



ホタルの生息環境の保全